

## 第1学年公民科（公共）学習指導案

学校名：  
学籍番号：  
授業者：  
指導者：

- 1 日時 2025年9月26日（金）3校時
- 2 場所 4階 視聴覚室
- 3 学年・組
- 4 単元名 政治参加と公正な世論形成（全6時間）
- 5 単元目標

①（知識・技能）

- ・政治参加の意義や手段、公正な世論形成の仕組みについて理解している。
- ・資料から、世論の形成過程や政治参加の事例を適切に読み取ることが出来る。

②（思考・判断・表現）

- ・政治参加や世論形成における課題を踏まえ、よりよい社会を実現するための具体的な方策を考察している。
- ・資料や具体例を根拠に、政治参加と世論形成の在り方について自分の考えをまとめ、根拠を示して表現している。

③（学びに向かう力・人間性等）

- ・政治参加や世論形成の問題に関心を持ち、よりよい社会の実現に向けて自ら課題を見だし、その解決に向けて学習を深めている。

### 6 教材観

本単元では、選挙と世論の関係を実社会の資料から捉え、事実（統計・制度・規範）に基づいて判断し表現する力を育成する。取り扱う内容は、投票の意義と若者投票率の実態、わが国の選挙制度の特色と課題（小選挙区比例代表並立制・一票の価値・投票環境や運動のルール等）、世論が形成される過程（メディア・SNS・圧力団体・世論調査、政治資金の透明性）ならびに参加スキル（情報収集の留意点、政策比較、投票手順）である。憲法の下で個人が議論に参加し、利害の対立を調整して合意を形成する営みが、よりよい社会の基盤であることを理解させる。既習の「民主主義の原理・基本的人権」等で学んだ価値を、具体的な参加行為へ接続させる位置付けの単元であり、後続の「国会・内閣・地方自治」（統治機構）へは、選挙で選ばれた代表がどの制度の下で意思決定に関わるのかという橋渡しを担う。教材として、教科書に掲載された年齢別投票率のグラフ、制度図、世

論形成の関係図、投票所の手順図等を用いることで、データの読み取りから課題設定、比較検討、根拠を示した表現までの学習過程を具体化できる。単元の終盤では、学習で扱った資料を根拠に「若者の投票率を高め、公正な世論に近づくために自分は何を・なぜ・どのように行うか」を短くまとめ、口頭でも説明できることを到達像とする。これにより、知識・技能の定着にとどまらず、メディア・リテラシー、合意形成、エビデンスに基づく表現といった資質・能力を横断的に育成できる。

## 7 生徒観

本学級はスマートフォンや SNS を日常的に活用する世代であり、時事的話題への関心は高い一方で、統計の読み取りや制度理解はばらつきが見られる。政治への心理的ハードルや自分ごとにすることが不十分な生徒も想定されるため、身近なデータや事例から導入し、用語と原理を平易に整理する支援が必要である。学力差に配慮し、グループワークの段階的な話し合いを通して、多様な意見を尊重しながら学びを進める。資料・タブレット等を活用して可視化・共有を行い、根拠に基づく主張を短文で表現する経験を重ねることで、政治参加への自信と実践意欲を高めたい。

## 8 指導観

本単元の指導では、教員が知識を一方向に伝達するのではなく、生徒自身が資料を根拠に比較検討し、合意形成と表現に至る学習過程を重視する。授業は、資料の読み取り（グラフ・比較・検討、表現（主張・根拠）という流れで構成する。学習形態は個人での思考からペア・班での対話、全体共有へと展開し、教員は数値の意味、因果の見立て、などで思考を支援する。価値の押し付けを避け、相互尊重と手続の公正を守る学級風土を保障する。本時「私たちと選挙」では「私たち若者が投票に行く意義」を中心課題とする。導入では、投票年齢を問う発問により既存の知識を喚起し、本時の学習課題を簡潔に提示する。その後、選挙権拡大の歴史と選挙の四原則を確認し、民主政治における手続の公正という視点を共有する。展開では、「自分が立候補するならどのような政策を出すか」を出発点に政策案を班内で構想し主張を言語化する。続いて、年代別有権者の割合等の資料を読み取り、「是が非でも当選したい場合、政策はどう変わるか」を再検討させ、政策の偏りが生まれる仕組みに気付かせる。終末では、シルバー民主主義を「高齢層の人口規模と投票参加の高さによって生じやすい現象」として整理し、高齢者と若年層の二項対立に陥らないよう留意する。世代間の優劣を論じるのではなく、「手続は公正でありつつ政策のバランスが課題となり得る」という視点で扱う。相手世代を断定的に評価する発言を避けさせ、互いを当事者として位置付ける。また、授業のまとめとして一方的な結論や教科書的な解答を提示するのではなく、記述は課さず、あえて問いかけで終わることで、生徒が自らの考えを持ち帰り、内省する機会を確保する。

## 9 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政治参加の意義や手段、公正な世論形成の仕組みについて理解している。</li> <li>・資料から、世論の形成過程や政治参加の事例を適切に読み取ることが出来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政治参加や世論形成における課題を踏まえ、よりよい社会を実現するための具体的な方策を考察している。</li> <li>・資料や具体例を根拠に、政治参加と世論形成の在り方について自分の考えをまとめ、根拠を示して表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>政治参加や世論形成の問題に関心を持ち、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> </ul>

## 10 指導計画（全6時間）

- (1) 私たちと選挙・・・1時間（本時）
- (2) 選挙の現状と課題・・・1時間
- (3) 世論の形成と政治参加・・・1時間
- (4) 国会と立法・・・1時間
- (5) 内閣と行政・・・1時間
- (6) 地方自治と住民福祉・・・1時間

## 11 本時の展開

### ①本時の目標

- ・私たち若者が投票に行く意義について、自分事として考えることができる。

### ②本時の評価基準

- ・選挙の四つの原則について理解できる（知識・技能）
- ・我々国民が主権者であるということに自覚をもち、選挙について関心をもてる。（思考・判断・表現）
- ・選挙の四つの原則を理解し、その意義を表現できる。（思考・判断・表現）
- ・日本社会が抱える課題を理解し、選挙の場面で主体的に果たすべき役割を考え、行動できる。（主体的に取り組む態度）

過程	学習内容・活動	指導上の注意点	評価基準【観点】 (評価方法)
導入 5分	1.出欠確認  2.本時の学習目標を提示「私たち若者が投票に行く意義について考えることができる」  3.発問「何歳から投票に行ける？」→18歳	2.目標を念頭におきながら受講することを促す。  3.簡単な問いかけから入り、次の展開に繋げる。	
展開① 10分	4.選挙権拡大の歴史に関する画像を提示。時代の流れと一緒に語句の説明を行う。 →(国民主権、議会制民主主義、選挙の四原則)	4.当時の選挙資格に必要な国税の値段を現在の価格でも提示して、生徒に伝わりやすくする。 また、単語だけでは覚えにくい語句の説明を時代の流れと共に説明し、伝わりやすくする。	4.選挙の基礎知識、四つの原則について記入できている。  5.主体性を持って議論に参加できている
展開② 15分	5.ペアワーク 「皆さんが立候補するとして、どのような政策を考えるか？」  6.発表(2~3ペアにあてる)	5.自由な発想を促すためペアワークの形式をとった。そのため、教科書的な発想にとどまらないように例の提示や声掛けを行う。  6.発表者以外には聞く姿勢を徹底させる。 また、出た意見に対して質問などをして、意図などを聞くようにする。	6.主体的に意見を述べる事が出来ている。

<p>展開③ 10分</p>	<p>7.ペアワーク 「年代別有権者数の割合の調査結果」を提示する。その上で「再び立候補するとします。是が非でも当選したいと考えている場合、どのような政策を考えるか？」を発問する。</p> <p>8.発表(2～3ペア)</p>	<p>7.グラフの見方や語句の不明点がないかグループを周り、円滑なワークを促す。</p> <p>8.発表者以外には聞く姿勢を徹底させる。また、出た意見に対して質問などをして、意図などを聞くようにする。</p>	<p>7.資料の読み取りが出来ている。また、これらを根拠に考えを表現できている。</p> <p>8.主体的に意見を述べる事が出来ている。</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>9.グループワークの結果を踏まえて、シルバー民主主義の説明と問いかけを行う。</p> <p>10.発問「若者の投票率を上げるためにはどのようなことをすればよいだろうか？」 「若者が投票に行く意義とは？」</p>	<p>9.高齢者と若者の2項対立を生まないように説明を行う。最後に教科書的な回答を行うのではなく、あえて問いかけで終えることで生徒の考える力を養いたい。</p> <p>10.書きながら手の止まっている生徒が居たら補助を入れる。</p>	<p>10.授業の内容を踏まえて意義と投票率を上げる具体的な方策を書けている。</p>

# 【私たちと選挙】

教科書P70～71

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

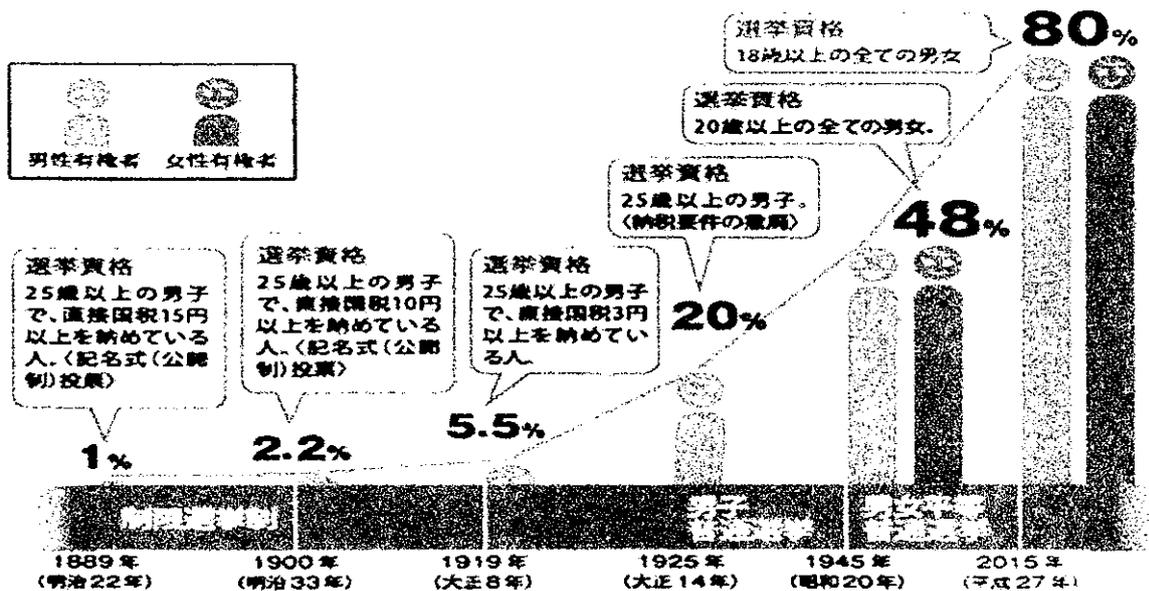
## 《目標》

● ( ) に当てはまる語句を答えなさい。

- ・ 皆さん、何歳から投票に行けるか知っていますか？ → ( ) 歳
- ・ 国民主権 → ( ) が主権を持つ。  
(※主権…その国の政治のあり方を最終的に決定する権力)
- ・ 議会制民主主義 → ( ) が選んだ代表者で構成する議会で政治について決める。

## 《選挙の四つの原則》

- ① 年齢以外の条件で選挙権を侵害しないこと → ( )
- ② 有権者が投じた一票の価値を平等に扱うこと → ( )
- ③ 有権者が直接候補者に対して投票すること → ( )
- ④ 投票内容の秘密が保たれること → ( )



【ペアワークシート】

教科書P70～P71

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

	立候補するとして今の自分が必要だと考える政策	「是非でも当選したい」場合に掲げる政策
自分の考え	<ul style="list-style-type: none"><li>•</li><li>•</li><li>•</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>•</li><li>•</li><li>•</li></ul>
発表用政策		
他グループ		

年代別有権者数の割合（第49回衆議院議員総選挙 2021年）

有権者数総数

105,320,000 人

年代	年代別有権者数の割合	年代別有権者数
18、19歳	2.2%	2,317,040 人
20歳代	10.9%	11,479,880 人
30歳代	13.1%	13,796,920 人
40歳代	17.0%	17,904,400 人
50歳代	15.7%	16,535,240 人
60歳代	14.6%	15,376,720 人
70歳代	26.5%	27,909,800 人

年代	投票率	年代別投票者数
18、19歳	43.2%	1,000,961 人
20歳代	36.5%	4,190,156 人
30歳代	47.1%	6,498,349 人
40歳代	55.6%	9,954,846 人
50歳代	63.0%	10,417,201 人
60歳代	71.4%	10,978,978 人
70歳代	62.0%	17,304,076 人

